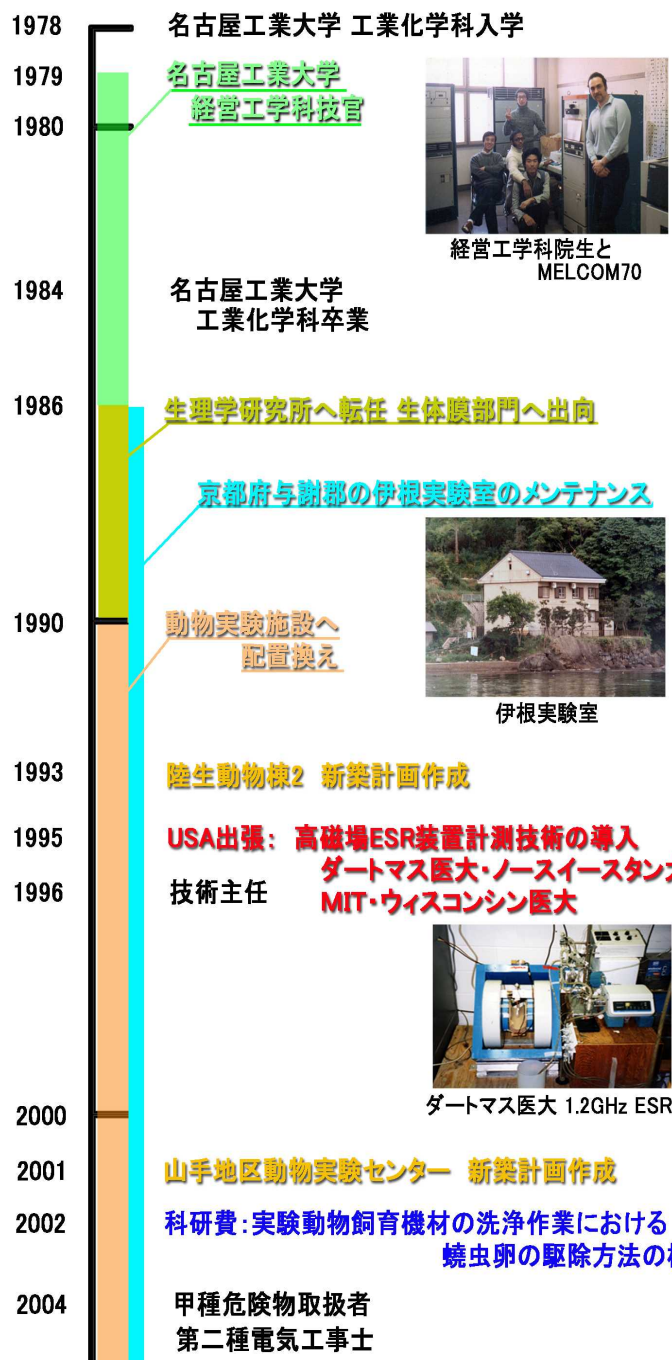


技術系職員 46年の歩み

佐治 俊幸 (生理学研究所 技術課)

SAZI Toshiyuki : 46 years spent as a technical officer

In 1979, I became a technician at Nagoya Institute of Technology while studying industrial chemistry. I learned computing and led student training. In 1986, I transferred to the National Institute for Physiological Sciences, working on squid axon research and maintaining the Ine Research Facility until 2019. In 1990, I moved to the Animal Experiment Facility, managing research equipment and animal care. In 2008, I joined the Equipment Research and Development Room, supporting research until my retirement in 2020, later extending my role until 2025. A highlight was a 1995 U.S. trip for ESR research. Over 46 years, I secured five research grants and obtained one utility model and one patent, with another pending.



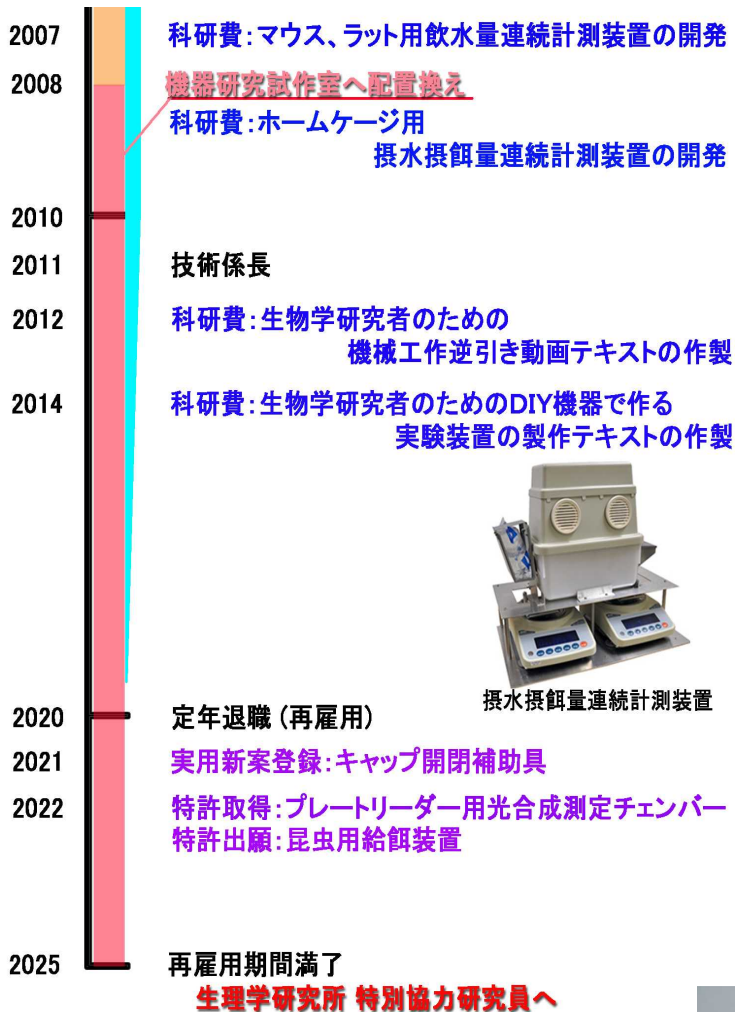
1979年6月1日、名古屋工業大学の経営工学科に技官（現在の技術職員）として採用されました。当時、私は同大学の工業化学科の夜間部に在籍しており、2年生でした。

経営工学科で初めてコンピュータに触れましたが、上司から「来年の夏の学生実習（計算科学）を担当できるようになりなさい」と指示を受けました。そのため、1年間講習会に通いながら学び、最終的にはマンツーマンでの実習を担当できるようになりました。当時使用していたコンピュータは三菱製の MELCOM70 で、主記憶は 64k 語、ハードディスクの容量は 20MB でした。その後、ほぼすべてのパソコンを扱う機会を得ることになりました。

子どもが生まれることをきっかけに、実家に近い職場への異動を希望し、1986年に生理学研究所へ転勤しました。技術課から生体膜部門へ出向し、ヤリイカの巨大神経軸索の研究に参加しました。主な仕事は、研究用の機材を作成したり、電気計測用のプログラムを作ったりすることで、実験自体には携わりませんでした。

また、1986年には京都府与謝郡伊根町に伊根実験室が開設されたため、そのメンテナンスも担当しました。この施設には、生体膜部門を離れた後も2019年の閉所まで関わり続けました。

1990年には動物実験施設へ異動しました。これは、伊根実験室でヤリイカの飼育や水槽設備の管理をしていた経験を買われたためです。当時、水生動物室の担当技官が退職したため、その後任として配属されたのです。動物実験施設では、水生動物室の管理に加え、動物実験用の機器の整備



摂水摂餌量連続計測装置

製作やプログラム作成、陸生動物室の設備管理、大型動物（サル・イヌ・ネコ）の検疫など、幅広い業務を担当しました。

さらに、1993年には明大寺地区陸生動物室2、2001年には山手地区動物実験センターの飼育室や実験室の基本設計を行いました。

2004年に職場が法人化されるのに伴い、さまざまな資格を取得する必要がありました。そのため、甲種危険物取扱者や第2種電気工事士をはじめ、有機溶剤作業主任者、特定化学物質作業主任者、さらにクレーン・玉掛け作業などの資格を取得しました。

2008年には機器研究試作室へ異動しましたが、その前の2年間は行動様式解析室と動物実験施設を兼任していました。この時期には、RI施設を行動解析室とマウス飼育室へ改修する作業や、行動解析に必要な機器の準備を担当しました。

機器研究試作室に異動した後は、2020年の定年まで、利用者の指導や依頼された実験機器の製作を行いました。そして定年後も2025年3月末まで再雇用され、引き続き機器研究試作室で働いています。

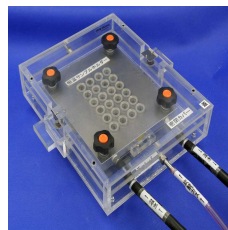
私のキャリアの中で、1995年のアメリカ出張は特に印象深い出来事でした。前年から基礎生物学研究所の分析室でESR（電子スピン共鳴）装置を使った共同研究に参加しており、「高磁場 ESR 装置の計測技術を導入」をするために渡米しました。当時、技術職員が海外出張するのは珍しく、公用パスポートとビザを取得しての出張でした。しかし、その後 ESR 装置の導入は実現せず、研究に直接活かすことはできませんでした。それでも、自分で準備し、ツアーではなく単独で海外に行く経験は、私にとって大きな学びとなりました。

46年間で科学研究費補助金に5回採択されました。最初のテーマは「実験動物の飼育機材の洗浄作業における蟻虫卵の駆除方法の検討」で、これは動物実験施設の飼育作業の経験をもとに提案しました。その後の2件は「摂水・摂餌量の連続測定装置の開発」で、動物実験施設と行動様式解析室での研究に関するものでした。最後の2件は、機器研究試作室での利用者指導を目的とした提案でした。



実用新案取得
キャップ開閉補助具

再雇用期間になって、特許や実用新案の取得の話が何件もあり、実用新案1件、特許1件が取得でき、現在、特許の申請1件が進んでいます。



特許取得
光合成計測チェンバー



特許申請中
昆虫用液餌給餌器

技術系職員として心がけてきた事

- ・何にでも興味を持ち、見聞した事を仕事に活かす。
- ・できない理由を探さず、できる手段を模索する。
- ・あの時ああすれば良かったと、後悔しない。
- ・常に前向きで、後ろ向きでは歩きにくい。